

一緒に考えてみませんか？
わたしたちのこれからの暮らしに必要なこと

ウィズコロナ=みんなで、みんなを支える地域コミュニティ

新型コロナウイルス感染の影響により、みんなが集まることが少なくなりました。「新しい生活様式」には、まだ慣れず、不自由さを感じています。

しかし、これからは感染のリスクを避けながら、人との交流や暮らしやすさを維持していく必要があるように思います。

「ウィズコロナ社会」の暮らしの不便さ、困難さを少なくして、なるべく心地よく過ごせるように、地域に、私たちみんなの知識や経験をいかした、助け合いや支え合いの仕組みをつくりたいと思っています。

私たち自身が、どのような社会状況にあっても、すこやかな気持ちで暮らしていけることを目指しています。

主催：特定非営利活動法人しこごしま・鹿児島県始良・伊佐地域振興局

お問合せ：特定非営利活動法人しこごしま ☎ 0995-66-6818

本事業は令和2年度始良・伊佐地域 官民連携プラットフォーム構築事業の委託を受けて実施しました

ウィズコロナ=みんなで、みんなを支える地域コミュニティ

事業の背景

- 社会的活動の自粛や長期間の巣ごもり生活などによる、多様な人々の孤立
- 新しい生活様式に困難を感じる方々の状況
 - ・リモートワークによる子育ての困難、家事等の負担増、支出増等
 - ・マスク着用によって感じる不自由さ(口話ができない、息苦しい、心理的圧迫を感じる等)
 - ・ソーシャルディスタンスを保ちにくい方々の存在(聴覚が低くなった高齢者、聴覚障がいの方等)
- 外出自粛による高齢者の集いの場への参加や運動の機会の減少
- 日常の生きがいの喪失、免疫力や認知機能の低下、フレイル等
- 家族や友人との直接的な交流の減少による精神状態への影響等

事業目的・ねらい

ウィズコロナ社会における、多様な人々の暮らしの困難に対し、地域に迅速かつ柔軟な対応が期待される助け合い、支え合いの仕組みを構築する。地域内の助け合い、支え合いの仕組みを通じ、多様性への理解が深まること、多様な人々の経験や知識がいかされ、みんなの出番と居場所がある地域コミュニティづくりを目的とする。

また、新たなコミュニケーションツールとしてインターネットを使用する講座や活動を行い、ウィズコロナ社会における地域コミュニケーションの向上を目指すとともに、従来の地域活動に参加する機会が少なかった障がいのある方や若い世代の方も参加しやすい地域活動のありかたを地域コミュニティで模索することを目的とする。

事業内容

講演

「ウィズコロナ社会に必要な助け合いによる生活支援サービス」

講師/ 齋藤鈴子さん(特定非営利活動法人隣の会 理事長・公益財団法人さわやか福祉財団インストラクター)

ディスカッション

「みんなで話そう、わたしたちのこれからの暮らしに必要なこと」

登壇者	追鳥 嘉正さん	松原なぎさ校区コミュニティ協議会 会長
	野口 治将さん	始良市校区コミュニティ協議会連絡会 会長
	早淵 友紀さん	始良市社会福祉協議会 第二層生活支援コーディネーター
	川畑 靖子さん	始良地区/ひまわりハウス あたご 責任者
	上山 泰子さん	始良地区/ひまわりハウス 吉野 サポーター

コーディネーター	上村 清志さん	始良・伊佐地域振興局企画部 部長
	齋藤 鈴子さん	特定非営利活動法人隣の会 理事長

日程/ 令和2年11月15日(日) 会場/ 始良公民館 参加者/53名 後援/始良市



- ・公助の限界を感じる中、こうした有償ボランティアの活動に大変興味を持ちました。支える人、支えられる人が、有償という価値を置くことで、持続可能な社会を創っていくことになると思いました。
- ・「住み慣れた土地で生きていきたい」という願いを実現させるために、サロンや有償ボランティア等の充実が必要という内容に共感しました。「顔を知る」機会を作っていくことからスタートしていくようにしたい。町内会(自治会)の実状に応じた方策(町内会の数だけの方策)があると考えますので、工夫していくようにしたい。「できること」を「できただけ」という軽い気持ちでコツコツ!
- ・元気なシニアが行動しやすい仕掛け「経験、知識は一流、ないのはチャンスと力」、「若者の中へ飛び込む勇気をもたせる」そんなことを考え、気づきました。
- ・2025年頃になったら、後期高齢者が急増するようですので…介護保険ではカバーしきれないようですので、有償ボランティアの内容をもっと深く話し合っ、実現できるよう夢みしています。

アンケートの回答から

地域における、 地域包括ケアシステムの構築と推進を 図る勉強会

講演

「地域包括ケアシステム構築の深化・推進(連携・協働) ～期待される「通いの場(居場所)」～」

講師/ 山内強さん(厚生労働省九州厚生局地域包括ケアアドバイザー)

日程/ 令和2年12月4日(金) 会場/ 松原地区公民館 参加者/25名



- ・通いの場を発展させていくことが重要、というお話がとても納得できました。
- ・地域包括ケアシステムについて、国の流れを取り入れながら、分かりやすい説明でした。通いの場の事業の展開と並行しながら、働く場の創出、マッチングの流れを視野に入れながら、事業を考えていきたいと思えます。
- ・通いの場が大事という事は十分理解できました。そこからの発展が難しいと思っています。色々な職種と話しながら考えていきたいと思えます。
- ・国の流れ、介護予防の流れも変化する中で、時代についていくのは専門職でも大変なところがあり、住民の方に理解をしてもらうよう、普及、広報することに、とても困難さを感じています。(理解が得られないことで、なかなか包括ケアシステムの構築がすすまないジレンマがあります) 始良市の将来のために、子供たちの未来もみすえて、今日の勉強会を参考に今後介護予防を行っていききたいと思いました。

アンケートの回答から

「生活支援サポーター養成講座」

講師/ 庄山正美さん

(有限会社西日本ヘルパー養成事業 代表取締役社長)

日程/ 令和2年12月12日・26日・令和3年1月16日

会場/ 松原地区公民館 参加者/47名(延べ)



必要としていることを、だれかに伝えられる

地域コミュニティ

必要とする人に、むきあえる

わたしであるために



- ・相手(お世話される方)の気持ちに寄り添う対応のしかた、細やかなところまで気をつけないとならない等、改めて認識した。
- ・これから先、自分にかぶさるであろう事態を実践で学ばせていただきました。
- ・初めての實習で介護の仕方などがとても勉強になりました。これからももっともっと勉強したいと思います。
- ・車椅子はじめてさわりました。勉強になりました。
- ・介護に関する講座は初めての受講でした。すぐ役立つ内容でした。

アンケートの回答から

ウィズコロナ=みんなで、みんなを支える地域コミュニティ

会えなくても、心はつながる



新しいコミュニケーション様式「スマートフォンを学ぼう！」

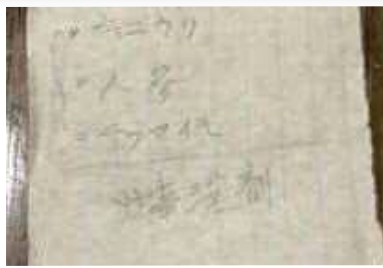
講師/ 鈴木大介さん(特定非営利活動法人 eワークス鹿児島)

日程/ 令和3年2月7日・14日・21日・25日

会場/ 松原地区公民館 参加者/69名(延べ)



「生活支援実習」



90代独居の男性への、食事支援(12回)・買い物代行(12回)実施。事業終了後も継続中

(有償・有料の活動)
住民参加型在宅福祉サービス「ひなた」

ひなた

特定非営利活動法人しかがしま
〒899-5653 始良市池島町20-20
☎/0995-66-6818

(有償・有料の活動)
住民参加型在宅福祉サービス「ひなた」

ついで

特定非営利活動法人しかがしま
〒899-5653 始良市池島町20-20
☎/0995-66-6818

た
ス
生
活
支
援
サ
ー
ビ
ス
「
ひ
な
た
」
つ
い
で

新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちの生活は一変しました。ウイルスという見えない存在に、人や社会は翻弄され、未知の脅威に対する弱さを感じました。

不安定な社会における影響をなるべく少なくするためには、「揺らぎのない」地域活動と、地域内で暮らす人々の支え合いが大切だと感じたことから、「ウィズコロナ=みんなで、みんなを支える地域コミュニティ」事業に取り組みました。

毎回多くの地域の方が参加された講演会や講座などを通じて、今までの地域活動を振り返る機会と、これからの地域に必要な取組について語り合えるきっかけを得ました。

どのような社会状況にあっても、健やかな気持ちで暮らし続けることのできる地域を目指して、これからも「みんなで、みんなを支える地域コミュニティ」づくりに取り組んでいきたいと思ひます。

特定非営利活動法人しかがしま